

- 4 次は、『宇治拾遺物語』の「雀の報恩の事」の【冒頭の部分】とその【現代語訳】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【冒頭の部分】

今は昔、春つかた、日づらかなりけるに、六十ばかりの女のありけるが、虫打ち取りてみたりけるに、庭に雀のしあきけるを、童部石を取りて打ちたれば、あたりて腰をうち折られにけり。羽をひためかして感ふほどに、鳥のかけりありきければ、「あな心憂。鳥取りて」とて、この女急ぎ取りて、息かけなどして物食はす。

【現代語訳】

今となつては昔のことだが、春のうららかなときに、六十歳ぐらいの女が、しらみなどを取っていた時に、庭に雀が歩いてたのを、子どもが石を拾って（雀に）ぶつけたら、（石が）当たって腰を折られてしまった。（雀が）羽をばたばたさせてもだえていると、カラスが飛び回っているのを見て、「あらかわいそうに」。カラスが食べてしまつたさうに。「と云つて、この女は急いで（雀を）取って、息をかけてやるなどして食べ物を食べさせた。

- 一 ―線部「取りてみたり」を現代仮名づかいに直し、すべてひらがなで書きなさい。  
二 ―線部「感ふほどに」の意味を【現代語訳】の中から抜き出しなさい。